

時・人・モノ 流れでつながる6つのストーリー

3 馬から人へ 開墾と開発 小金牧の営み

東武野田線沿いの台地は、江戸時代には徳川幕府の官営牧で馬の放牧地であった小金牧が広がっていました。馬の放牧地であった土地は、江戸時代から明治・昭和、そして平成・令和と開墾・開発が行われます。流山市と柏市の市境が複雑に入り組んでいるのは、江戸時代の開墾の影響です。青田新田（現：青田）・十太夫新田（現：おおたかの森北）・駒木新田（現：駒木台）・初石新田（現：西初石・東初石）・向小金新田（現：向小金）等、江戸時代から新田開発が行われた地は、流山市となります。新田開発された場所は、昭和30年代には江戸川台や松ヶ丘の住宅団地開発に、そして平成・令和ではおおたかの森駅周辺の開発が行われます。馬の放牧地であった、広大な台地は開墾と開発の地となり、人々の生活の場と変貌していきました。

一方、牧であった場所には、野馬土手や石造物が残されており、開発が進む中で、当時の面影を残しています。

構成文化財

市指定文化財

建造物 諏訪神社本殿・幣殿・拝殿

国登録有形文化財

建造物 松ヶ丘一号型街路灯

未指定文化財

建造物 オランダ観音 オランダ様 馬頭観音 綿貫氏墓

古文書 須賀家文書 岡田家文書 鐔木家文書 恩田家文書 芳野家文書
吉野家文書

記念物

遺跡 松ヶ丘野馬土手 江戸川台東1丁目野馬土手 上新宿野馬土手 駒木野馬土手
長崎野馬土手

その他 新田開発の地名（青田新田・駒木新田・十太夫新田・初石新田・向小金新田）
江戸川台・松ヶ丘の街路

馬から人へ 開墾と開発 小金牧の営み

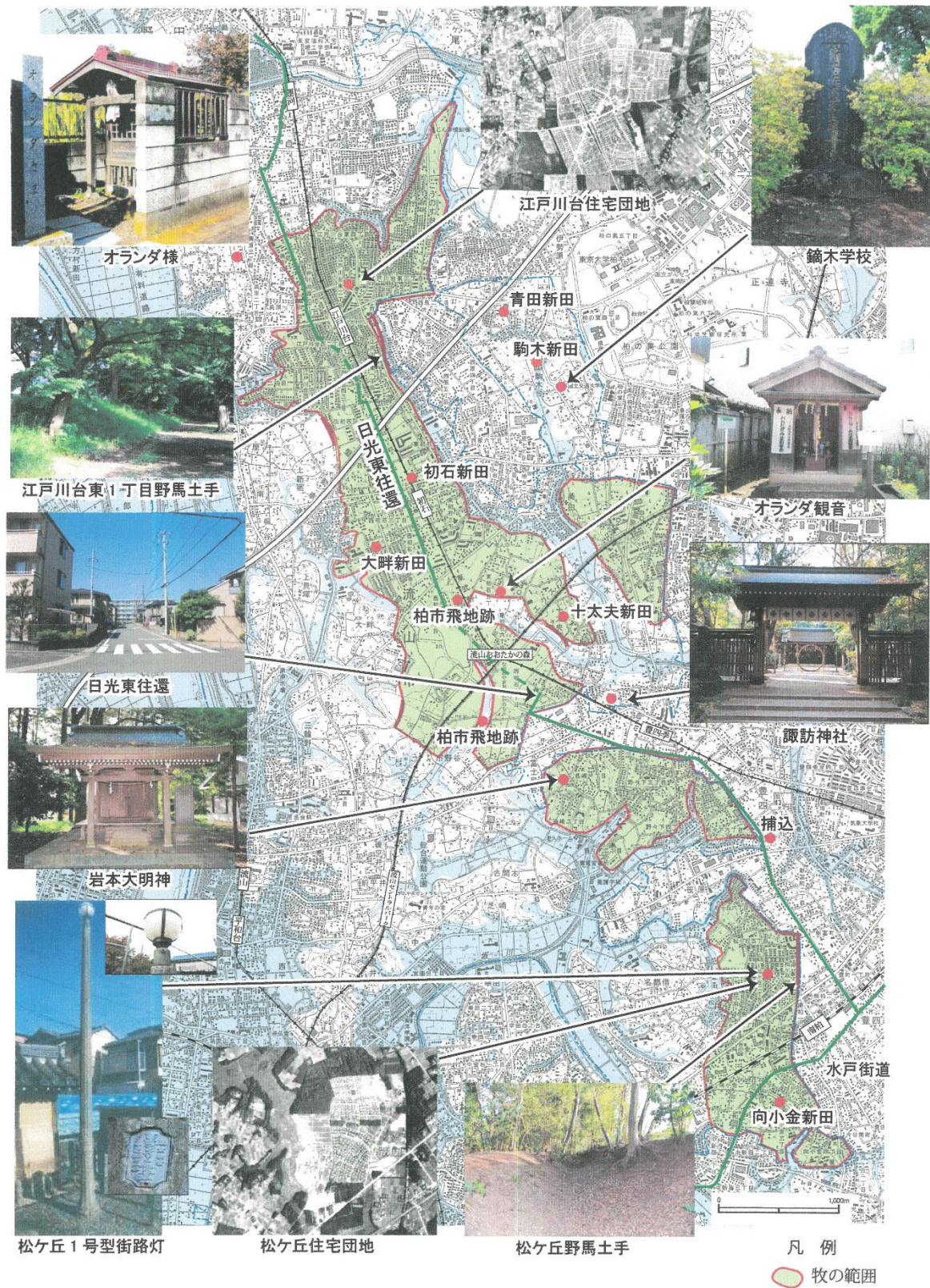


図19 小金牧関連文化財位置図

3 馬から人へ 開墾と開発 小金牧の営み

ストーリー固有の方針

江戸時代から続く開墾・開発が現在のまちの発展に繋がっていることの周知を図っていきます。

課題

- ・松ヶ丘野馬土手の価値の確認を進めていく必要があります。
- ・開発に伴い、野馬土手の保存が難しくなっています。
- ・小金牧を語る古文書類の文化財指定を進めていく必要があります。
- ・開墾・開発の歴史を周知していく必要があります。
- ・小金牧を語る古文書類の調査を進めていく必要があります。
- ・小金牧についての周知が十分ではありません。

(なぜ流山市と柏市の市境はこんなに複雑なのか)

方針

- ・松ヶ丘野馬土手の価値の確認を進めていきます。
- ・野馬土手の文化財の市指定・登録・文化財認定を進め、文化財としての価値を高めます。
- ・小金牧の歴史変遷が記録されている古文書の市指定を進めていきます。
- ・文化財看板や周遊コースの整備を図っていきます。
- ・開墾と開発の歴史を周知していきます。
- ・古文書の調査・研究を進めていきます。
- ・地域の関心を高め、まちの誇りに対しての醸成を図っていきます。

保存と活用に関する措置

番号	措置	取組	取組主体					取組年度						
			市 民	地 域	団 体	専 門 家	行 政	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12
1 (1)※	松ヶ丘野馬 土手の価値 の確認 《重点事業》	柏市と協力し、調査・研究 により、松ヶ丘野馬土手 の価値を確認していきま す。				○	◎							
2	野馬土手の 保存	野馬土手の保存を図って いきます。	○	○		○	◎							
3 (1)	古文書の市 指定	小金牧の歴史が記録され ている古文書の市指定を 進めていきます。				○	◎							
4 (30)	文化財説明 板・案内板 の作成	小金牧の周知を図るため の看板・案内板の作成を 進めます。	○			○	◎							
5 (31)	文化財周遊 コースの整 備	文化財周遊コースを整備 し、地域の歴史への関心 を高める取り組みを進め ます。			◎	○	◎							
6	古文書調査 の推進	小金牧の歴史を解明する ための古文書調査を進め ていきます。				○	◎							
7	小金牧への 見学会・講 座の実施	見学会や講座を実施し、 現代までの開発・開墾の 歴史から土地への理解と 愛着を深めていきます。	○	○	○	○	◎							

※括弧内は第8章の取組番号